クサロル	皇工学宫等	専門学校	開講年度 令和04年度 (2	022年度) 授	業科目	総合英語IA				
科目基礎		<u> XI ELLILD</u>		·022+/文/						
科目番号	足目取	0001		科目区分		7				
		0001 授業			一般/必修					
授業形態				単位の種別と単位数		修単位: 2				
開設学科		一般科目		対象学年	1					
開設期		前期		週時間数	4	### F				
教科書/教	材	Grammar な書店編集	『 Ambition English Communicatio 25 Lessons』(いいずな書店),桐 部「Evergreen English Grammar 』 rgreen』(いいずな書店)	on I 」(開隆堂), いいずな書店編集部「Evergreen English 引原書店編集部「データベース3000 5th Edition」(桐原書店), いいず 25 Lessons Workbook updated 」(いいずな書店) / 参考書:川崎						
担当教員		平尾 恵美,	岡下 朋世							
到達目標	票									
1 聞き手 2 説明や	手に伝わるよ や物語などの	う, 句・文に 文章を毎分 1	おける基本的なリズムやイントネーミ 00 語程度の速度で聞き手に伝わるよ	/ョン, 音のつながりに うに音読ができる。	記慮して,音	読あるいは発話できる。				
ルーブリ	リック									
			理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの	目安	未到達レベルの目安				
評価項目:	1		聞き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネーション、音のつながりに配慮して、適切に音読あるいは発話できる。	聞き手に伝わるよう, ける基本的なリズムや ション, 音のつながり , 音読あるいは発話で	イントネー に配慮して	聞き手に伝わるよう, 句・文にお ける基本的なリズムやイントネー ション, 音のつながりに配慮して , 音読あるいは発話できない。				
評価項目2	2		説明や物語などの文章を毎分 100 語程度の速度で聞き手に伝わるように音読が十分にできる。	説明や物語などの文章 語程度の速度で聞き手 うに音読ができる。		説明や物語などの文章を毎分 100 語程度の速度で聞き手に伝わるように音読ができない。				
学科の発	到達目標耳	頁目との関係	<u></u>		-					
	育到達度目標									
<u>教育方法</u>		- \ /								
教育力が	Д 			サント「肺ノト「钎オト	の4世紀を約	公会的に受ぎ、特に英語の様立を自.				
概要		ほつけ英語	・フルの英語に触れなから「読む」「 記による理解や自己表現ができるよう(音へ」「嘘へ」「語り」 こなるための基礎を養う	の4 技能で前。	で日別に子が。 付に失語の構文を身				
授業の進め方・方法		【学習方法 毎回予習を る,ノート 。復習とし	, 小テスト, 発表等を課す。 【学習方法】 毎回予習をして授業に臨むこと。具体的には, 分からない単語の意味と品詞を辞書で調べ, 自分自身の単語帳を作成する, ノートに教科書の英文や例文を筆写し, 訳文を書くといった作業を行っておくこと。授業には辞書を持参すること。復習として, 音読を怠らないこと。							
			【成績の評価方法・評価基準】 2回の定期試験を行う。時間は50分とする。2回の試験の平均(60%)と、小テスト・課題・発表・演習(40%)から、総合的に成績を評価する。上述の到達目標に基づき、授業に対する積極的な取り組みと授業内容の理解および運用力を評価基準とする。 【教員の連絡先】 研究室 平尾恵美 A棟3階(A-302) / 岡下朋世 B棟3階(B-307) 内線電話 8909 / 8930 E-mail: e.hirao アットマーク maizuru-ct.ac.jp / t.okashita アットマーク maizuru-ct.ac.jp (アットマークは@に変えること。)							
注意点		2回の定期 ア を評価基準 【教員の連 研究電話 8 E-mail:e	試験を行う。時間は50分とする。2回 :成績を評価する。上述の到達目標に とする。 :絡先】 :尾恵美 A棟3階(A-302) / 岡下朋: :909 / 8930 .hirao アットマーク maizuru-ct.ac.	基づき, 授業に対する積 世 B棟3階(B-307)	極的な取り	目みと授業内容の理解および運用力				
	電性・履修	2回の定期 えを評価を では を評価を では では では では では では では では では では	試験を行う。時間は50分とする。2回 :成績を評価する。上述の到達目標に とする。 :絡先】 :尾恵美 A棟3階(A-302) / 岡下朋: :909 / 8930 .hirao アットマーク maizuru-ct.ac.	基づき, 授業に対する積 世 B棟3階(B-307)	極的な取り	目みと授業内容の理解および運用力				
授業の属		2回の定期に を評価基準 【教室電話を 研究線電話を E-mail:e えること。 多上の区分	試験を行う。時間は50分とする。2回成績を評価する。上述の到達目標に にとする。 終先】 「尾恵美 A棟3階(A-302)/岡下朋 1909 / 8930 .hirao アットマーク maizuru-ct.ac.)	基づき,授業に対する積 世 B棟3階(B-307) jp / t.okashita アット [、]	極的な取り	lみと授業内容の理解および運用力 uru-ct.ac.jp(アットマークは@に変				
授業の属	禹性・履修 ティブラーニ	2回の定期に を評価基準 【教室電話を 研究線電話を E-mail:e えること。 多上の区分	試験を行う。時間は50分とする。2回 :成績を評価する。上述の到達目標に とする。 :絡先】 :尾恵美 A棟3階(A-302) / 岡下朋: :909 / 8930 .hirao アットマーク maizuru-ct.ac.	基づき, 授業に対する積 世 B棟3階(B-307)	極的な取り	lみと授業内容の理解および運用力 uru-ct.ac.jp(アットマークは@に変				
授業の原 □ アクラ	ティブラーニ	2回の定期に を評価基準 【教室電話を 研究線電話を E-mail:e えること。 多上の区分	試験を行う。時間は50分とする。2回成績を評価する。上述の到達目標に にとする。 終先】 「尾恵美 A棟3階(A-302)/岡下朋 1909 / 8930 .hirao アットマーク maizuru-ct.ac.)	基づき,授業に対する積 世 B棟3階(B-307) jp / t.okashita アット [、]	極的な取り	目みと授業内容の理解および運用力				
授業の原 □ <i>アク</i> ラ	ティブラーニ	2回の定期に関いた。 2回の定期に基準 【教究を証明を証明を表示を記述を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を	試験を行う。時間は50分とする。2回成績を評価する。上述の到達目標に とする。 終先】 尾恵美 A棟3階(A-302)/岡下朋 1909 / 8930 Lhirao アットマーク maizuru-ct.ac.)	基づき,授業に対する積 世 B棟3階(B-307) jp / t.okashita アット ³ □ 遠隔授業対応	極的な取りA マーク maizu	IIみと授業内容の理解および運用力 uru-ct.ac.jp(アットマークは@に変 □ 実務経験のある教員による授業				
授業の原 □ アクラ	ティブラーニ	2回の定的基準 2回の定的基準 教究線画面 資室 語: e 表示の区分 こえる 区分	試験を行う。時間は50分とする。2回成績を評価する。上述の到達目標に とする。 終先】 尾恵美 A棟3階(A-302)/岡下朋 3909/8930 .hirao アットマーク maizuru-ct.ac.) □ ICT 利用 □ ICT 利用 □ S業内容 ンラバス内容の説明 esson 1 For Better Communication	基づき,授業に対する積 世 B棟3階(B-307) jp / t.okashita アット ⁻³ □ 遠隔授業対応	極的な取り& マーク maizu この到達目標	IBみと授業内容の理解および運用力 uru-ct.ac.jp(アットマークは@に変 □ 実務経験のある教員による授業				
授業の原 □ <i>アク</i> ラ	ティブラーニ	2回の定的基準 連平 医	試験を行う。時間は50分とする。2回成績を評価する。上述の到達目標に に成績を評価する。上述の到達目標に とする。 終先】 尾恵美 A棟3階(A-302)/岡下朋 3909 / 8930 .hirao アットマーク maizuru-ct.ac.) UICT 利用 受業内容 シラバス内容の説明 esson 1 For Better Communication のこと時制(1) esson 1 For Better Communication	型 B棟3階(B-307) ip / t.okashita アット □ 遠隔授業対応 □ 週ごと n / Lesson 1 動 1, 2	極的な取り系 マーク maizu この到達目標	IBみと授業内容の理解および運用力 uru-ct.ac.jp(アットマークは@に変 □ 実務経験のある教員による授業				
授業の原 □ アクラ	ティブラーニ	2回の定的基準 連平 医	試験を行う。時間は50分とする。2回成績を評価する。上述の到達目標に とする。 終先】 尾恵美 A棟3階(A-302)/岡下朋 1909/8930 .hirao アットマーク maizuru-ct.ac.) UTT 利用 W業内容 シラバス内容の説明 esson 1 For Better Communication は時制(1) esson 1 For Better Communication は時制(2) esson 1 For Better Communication	基づき,授業に対する積 世 B棟3階(B-307) jp / t.okashita アット・ 」 」 遠隔授業対応 」 」 週ごと n / Lesson 1 動 1, 2	極的な取り系 マーク maizu この到達目標	IBみと授業内容の理解および運用力 uru-ct.ac.jp(アットマークは@に変 □ 実務経験のある教員による授業				
授業の原 □ アクラ	ティブラーニ	2回総評 教究線画記と 「研内E-え の を 上ング 週 1週 1週 1週 1週 1週 1週 1週 1週 1週	試験を行う。時間は50分とする。2回成績を評価する。上述の到達目標に は表する。 とする。 総先】 尾恵美 A棟3階(A-302)/岡下朋語 3909/8930 .hirao アットマーク maizuru-ct.ac.) UICT 利用 受業内容 シラバス内容の説明 esson 1 For Better Communication のこと時制(1) esson 1 For Better Communication のこと時制(2)	型 B棟3階(B-307) jp / t.okashita アット	極的な取り系 マーク maizu この到達目標	IBみと授業内容の理解および運用力 uru-ct.ac.jp(アットマークは@に変 □ 実務経験のある教員による授業				
授業の属	ティブラーニ	2回総評 教究線mas 区分 の合価 員室電記と 分 上ング 週 1週 3週 4週 5週 4週 5月 1月 1月 1月 1月 1月 1月 1月 1月 1月 1月 1月 1月 1月	試験を行う。時間は50分とする。2回成績を評価する。上述の到達目標に設しまする。 「終先】 「尾恵美 A棟3階(A-302)/岡下朋語909 / 8930 Inirao アットマーク maizuru-ct.ac.)	世 B棟3階(B-307) jp / t.okashita アット jp / t.okashita アット im / Lesson 1 動 1, 2 in / Lesson 2 動 1, 2 in / Lesson 3 動 1, 2 Capybara? / 1, 2 Capybara? / 1, 2	極的な取り系 マーク maizu この到達目標	IBみと授業内容の理解および運用力 uru-ct.ac.jp(アットマークは@に変 □ 実務経験のある教員による授業				
授業の原 □ アクラ 授業計画	ティブラーニ	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	試験を行う。時間は50分とする。2回成績を評価する。上述の到達目標に設しまする。 「終先】 「尾恵美 A棟3階(A-302)/岡下朋語909 / 8930 hirao アットマーク maizuru-ct.ac.)) □ ICT 利用 □ ICT 利用 □ ICT 利用 □ Sub (1)	世 B棟3階(B-307) jp / t.okashita アット jp / t.okashita アット im / Lesson 1 動 1, 2 in / Lesson 2 動 1, 2 in / Lesson 3 動 1, 2 Capybara? / 1, 2 Capybara? / 1, 2 Capybara? / 1, 2	極的な取り系 マーク maizu この到達目標	IBみと授業内容の理解および運用力 uru-ct.ac.jp(アットマークは@に変 □ 実務経験のある教員による授業				
授業の原 □ アクラ 授業計画	ティブラーニ	2	試験を行う。時間は50分とする。2回成績を評価する。上述の到達目標に過じまする。 「終先】 「尾恵美 A棟3階(A-302)/岡下朋語909 / 8930。 hirao アットマーク maizuru-ct.ac.)) □ ICT 利用 □ ICT 利用 □ ICT 利用 □ Symptom (1)	世 B棟3階(B-307) jp / t.okashita アット ip / t.okashita アット im / Lesson 1 動 1, 2 in / Lesson 2 動 1, 2 in / Lesson 3 動 1, 2 Capybara? / 1, 2 Capybara? / 1, 2	極的な取り系 マーク maizu この到達目標	IBみと授業内容の理解および運用力 uru-ct.ac.jp(アットマークは@に変 □ 実務経験のある教員による授業				
授業の原 □ アクラ 授業計画	ティブラーニ	2回総評 教究線mas 区 (研内E-元)	試験を行う。時間は50分とする。2回成績を評価する。上述の到達目標に設しまする。 A 様名	世 B棟3階(B-307) jp / t.okashita アット jp / t.okashita アット im / Lesson 1 動 1, 2 im / Lesson 2 動 1, 2 im / Lesson 3 動 1, 2 Capybara? / 1, 2 Capybara? / 1, 2 1, 2	極的な取り系 マーク maizu この到達目標	IIみと授業内容の理解および運用力 uru-ct.ac.jp(アットマークは@に変 □ 実務経験のある教員による授業				
授業の原 □ アクラ 授業計画	ティブラーニ	2	試験を行う。時間は50分とする。2回成績を評価する。上述の到達目標に設しまする。 A 様名 「展恵美 A 棟3階(A-302)/岡下朋語の909/8930 I hirao アットマーク maizuru-ct.ac.) I ICT 利用 I ICT 利用 I ICT 利用 I ICT 利用 S 業内容 J ICT 利用 S まなの 1 For Better Communication ではいましまでは、ではいます。 B と時制 (2) E S の 1 For Better Communication ではいます。 B と時制 (3) E S の 2 Want a Pet? How About a esson 4 完了形 (1) E S の 2 Want a Pet? How About a lus 完了形 E S の 2 Want a Pet? How About a lus 完了形 E S の 3 Grace Daring / Lesson 6 配 を の 3 Grace Daring / Lesson 6 配 を と の 4 に に は に に は に は に に は に は に に は に は に	世 B棟3階(B-307) jp / t.okashita アット jp / t.okashita アット im / Lesson 1 動 1, 2 in / Lesson 2 動 1, 2 in / Lesson 3 動 1, 2 Capybara? / 1, 2 Capybara? / 1, 2 in / Lesson 3 動 1, 2 in	極的な取り系 マーク maizu この到達目標 と	IIみと授業内容の理解および運用力 uru-ct.ac.jp(アットマークは@に変 □ 実務経験のある教員による授業				
授業の原 □ アクラ 授業計画	ティブラーニ	2	試験を行う。時間は50分とする。2回成績を評価する。上述の到達目標に設しまする。 A 様名	世 B棟3階(B-307) jp / t.okashita アット jp / t.okashita アット im / Lesson 1 動 1, 2 in / Lesson 2 動 1, 2 in / Lesson 3 動 1, 2 Capybara? / 1, 2 Capybara? / 1, 2 in / Lesson 3 動 1, 2 in	極的な取り系 マーク maizu この到達目標	IIみと授業内容の理解および運用力 uru-ct.ac.jp(アットマークは@に変 □ 実務経験のある教員による授業				

	12週 13週		12週		Lesson 4 Soccer and Foreign Languages / Lesson 8 態 (1)			1, 2			
			Lesson 4 Soccer and Foreign Languages / Lesson 9 態 (2)				1, 2				
					on 4 Soccer a	1, 2					
					まとめ			1, 2			
		16週 (15週目の後に期末試験を実施) 期末試験返却・達成度確認									
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標											
分類 分野				学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	2242147		
基礎的能力	人文・ ^そ 科学	・社会英	英語		英語運用の 基礎となる 知識	聞き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネーション、音のつながりに配慮して、音読あるいは発話できる。			1	前1,前2,前 3,前4,前 5,前6,前 7,前9,前 10,前11,前 12,前13,前 14,前15	
			火品	<u> </u>	英語運用能 力の基礎固 め	説明や物語などの文章を毎分100語程度の速度で聞き手に伝わる こうに音読ができる。			1	前1,前2,前 3,前4,前 5,前6,前 7,前9,前 10,前11,前 12,前13,前 14,前15	
評価割合						_					
		試験		発	表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合	<u></u>
総合評価割合		60		0		0	0	40	0	100	
基礎的能力 60		50		0		0	0	40	0	0 100	
専門的能力 (0		0		0	0	0	0 0		·
分野横断的能力		0		0		0	0	0	0 0		